



人生に定年なし

— お年寄りの

生きがいを考える —

いま横芝町では、1000人のうち8人が70歳以上のお年寄り、この割合は今後益々増える傾向にあります。高齢化社会はお年寄りだけの問題ではありません。若い人たちもやがて直面する社会全体のテーマと言えます。9月15日の「敬老の日」を機に、老人の生きがいについて、みんなで考えてみませんか？

こんな話があります。— 畑仕事が楽しみて、家族に新鮮な野菜を食べさせるのを、何よりの生きがいとしていたおじいさんがいました。その息子さんは、おじいさんの体を心配して、少しのんびりしてもらおうと、野菜作りを禁じてしまいました。おじいさんは、それ以降部屋に引きこもりがちになって、持病も再発してしまっただけです。— これほど極端ではないにし

老人クラブは頑張っています

町老人クラブ連合会長 押尾 光雄

抵抗があるのかも知れませんが、未加入の方の理解を求め、積極的に加入促進を図っていく計画です。

私は、4代目の連合会長として、組織の円滑な運営に努力しております。

本年度の連合会の基本方針は、会員相互の心の交流と、親睦を図ることにあります。また、各学級の研修はもちろん、スポーツ振興に重点を置いて、健康で

豊かな体力づくりをめざします。本年度の主な行事としては、①町内15か所のゲートボール場での練習成果を競う横芝町ゲートボール大会②老人スポーツ運動会③クラブ員によるなのはな体操会④全会員による秋の研修旅行—を計画しています。このような活動を通じて、私たちは「ボケ老人」をなくし、生きがいのある老人社会を作ろうと、現在努力しています。



お年寄りの技術を子供たちへ

ても、「お年寄りに対する思いやり」が、かえって「生きがいを奪う」結果を招く場合が、往々にしてあります。

「意欲を失う」ことは、急速に老化を進めます。お年寄りの生きがいを考えるとき、私たちが心すべきことは「積極的に生きようとする意欲を奪ってはならない」—ということですから。人生に定年はないのですから。

貴重な財産

“知恵と経験”

長い人生を生きぬいてきたお年寄りには「知恵と経験」という、何にも代えがたい財産がある。

経験に裏打ちされた思慮深さや、冷静にものごとを見極める目—これら、お年寄りならではの持ち味や特徴を、家庭や地域社会でもっと役立たせてほしいものです。そのためにはお年寄りばかりでなく、お年寄りを囲む家庭や、近隣の人々の努力も必要です。家庭や社会で役割を見つけ、伸び伸びと行動できることこそ、お年寄りの生きがいにつながるのではないのでしょうか。

長寿おめでとう



90歳以上は—24人

横芝町・長寿番付 (8月15日現在)

東		西	
川口 98	(老人ホーム)	94	島 (三)
伊藤 94	(新島荒場)	94	貫 (道)
伊藤 93	(堤山)	93	倉 (長)
伊藤 93	(木戸台)	93	熊 (牛)
鈴木 93	(栗山)	92	(老人ホーム)
寺本 92	(上町)	91	(栗戸台)
内田 92	(東町)	91	(老人ホーム)
権名 91	(老人ホーム)	90	(老人ホーム)
石橋 90	(東町)	90	(小堤)
鈴木 90	(立会)	90	(木戸台)
実川 90	(古川)	90	(老人ホーム)
鈴木 90		90	

〈太字は男性です〉